

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

## Stay Smile 農業の未来へ向かって ~新たな力~

町新規就農支援事業

### ◆中山 陽介さん (葛窪)

2011年8月よりここ富士見町で農業の研修に入り、約3年の研修期間を終え2014年4月より葛窪にて営農を始めました。今年で独立3年目を迎えます。

現在私は夏秋いちご(四季成りいちご)を栽培しています。普通のいちごと何が違うの?聞いたこともない。という方も多いかもしれません。

いちごは主に冬から春にかけての作物です。ところが夏や秋でもケーキ屋さんでは当たり前のようにイチゴのケーキが並んでいます。実はこの夏から秋にかけてのいちごは約90%が外国産です。いちごは暑さに弱く、夏でも涼しい高原地域や北海道など一部の地域でしか栽培することができません。そんな中富士見町は、夏涼しく、水がきれいで日照量も多い、というとても夏秋いちご栽培に適した地域でした。

実際に栽培を始めてみると難しい事も多く、今はまだ富士見町のよい気候を十分に生かしきれてはいませんが、少しずつ経験と知識を重ね、よりよいいちごの栽培を続けて行きたいと思っています。また地域の水源や汐、農地などを守っていく事も新規就農者の大きな役割だと考えています。昔から受け継がれている農業を、地域資源を、富士見町を、将来に繋げるため微力ながら頑張っていきたいと思っています。



## Stay Smile 女神に託された願い ~人面土器のムラ~

井戸尻考古館 ☎64-2044

### 下原遺跡(平成4年)

八ヶ岳西南麓では平成に入っても農業構造改善事業が行われますが、富士見町では田端集落の周辺で大規模な事業計画があり、これに先立っていくつもの遺跡が発掘されます。そのうちのひとつが下原遺跡でした。地元田端区のほか、町内外の多くの方々の協力を得て、わずか3ヶ月ほどで18軒の住居址に墓穴と思われる小竪穴90余基と、縄文時代中期の集落を丸ごと掘りあげ、当時の典型的な村の姿を明らかにすることができたのです。

下原遺跡では数多くの土器が住居址に遺され、その数は100個を優に越えますが、とりわけ注目されたのは、ふつうの遺跡では1~2個しか見つからない人面深鉢と呼ばれる



▲土器がたくさん



▲女神の土器 現る

“女神の土器”が、破片もあわせて10個体分も出土したことです。新たな生命を産み、豊穡を約束し、生命を循環させる女神像。下原ムラは女神の祭りを司る、重要な役割を担っていたのかもしれません。

また藤内遺跡の発掘から考えられるようになってきた住居と集落の在り方について「単に人が住んだ跡なのではなく、再生を祈る精神的な構造が反映されていることが確認できた。」と、当時発掘を担当した井戸尻考古館長の樋口誠司さんは振り返ります。大切なものは、やがて必ずここに帰ってくる。女神の土器に託された願いが、ムラの跡にも遺されているかのようです。

※今月で「遺跡発掘とそこにかかわった人々」の連載は終了です。井戸尻考古館にはまだまだ興味深いお話がいっぱいあります。ぜひお出かけください。

## 富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

## 宅配ボランティアの活動の紹介

平成15年に会の結成以来、身体の不自由な方、交通手段がなく図書館に行けない高齢者の方々の知的欲求に応え、心豊かな時間を過ごして欲しいと願い3本の柱を立て活動を進めてきました。

- ① 高齢者の個人宅、施設入所の方に、図書館から本を借りお届けする  
多くの方が読書に対する興味は深く、話題になった本や新しい雑誌を希望され、2週間の貸出期間内に5冊を読破することが恒常化されている方もおられ、長期間貸出冊数の多さを誇る図書館の活動にも貢献できたのではないかと考えています。
- ② 本を読んで差し上げる(1対1が基本)、お話の相手をする  
選書は対象者の方の希望する物。諏訪地域に昔から語られている民話、伝説、昔話(ご自分の生まれ育った地域の名前のでてくるおはなしは喜ばれます)、挿絵のきれいな絵本、紙芝居など多岐にわたります。
- ③ 地域の高齢者グループと読書を通じて交流する
  - ・季節感のあるお話(旧暦、五節句、昔ながらの行事のはなし等)をする。
  - ・一緒に朗読をする、歌を歌う。
  - ・お薦めの本の紹介をし、図書館で借りて読むようお薦めする。

私たちはたくさん的高齢者の方との交流の中で多くの元気を戴いています。人間のあるべき姿や先人の知恵も学ぶことができます。この活動で、何より素敵な贈り物は笑顔です。また、この活動を通じて読書の幅も広がり、人間の幅も広がりました。

家庭環境が大きく子どもの読書好きにつながるといわれています。共働きが一般化している現在、両親が読書を楽しむ時間的な余裕がなかなか作れないのが現実です。家族の中に読書好きの高齢者がいれば、役割は大きいといえます。

- ご近所に私たちの活動がお役に立つ方はいらっしゃいませんか。また、「宅配ボランティア」の活動に参加したい方は是非ご一緒しましょう。 お問合せ・連絡先 富士見町図書館 ☎62-7930



## Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの場所から~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

## 世代が違って

子育てひろばAiAiでは、年に数回お母さん同士が集まってお茶を飲みながらおしゃべりする「AiAiカフェ」を開催しています。子育てのいろんな悩みを同じ立場の人と共有し、リフレッシュすることを目的としています。子どもたちが安心して遊ぶことができる場所での開催なので、普段心からお茶とおしゃべりの時間を楽しむことがなかなかできないお母さんたちには好評です。

さて、1月に開催したAiAiカフェは「世代間交流」の機会として、民生児童委員母子児童部会の皆さんをお招きして、子育て中のお母さんたちと一緒に子育てについて語り合っていました。テーマは「子育てここが大変」。

委員の皆さんのお子様が小さかったころの子育ての大変だったエピソードをお聞きし、今の子育てとどう違うのか、今は何が大変かを考えたりお伝えしたりしました。男性も多数参加してくださったので、いろんな立場でのエピソードが集まり盛り上がりしました。

男性からの、「子育てに関わりたくても仕事を優先せざるを得ない状況でなかなか関わらなかった」、女性からの、「子育て仲間があまりいない中、必死で毎日を過ごしていた」、というようなお話から、女性が子育てのほとんどを担う状況は、民生児童委員の皆さんの時代も今も変わらない、ということが今回わかりました。親が子育てに奮闘する状況を世代を越えて共有できたことは、参加者の皆さんの「楽しかったです〜」「毎月やってくれや」などの感想から十分に感じる事ができました。一人では大変な子育ても、いろんな人が理解し関わることで、親にも子どもにもゆとりが生まれ、みんなの笑顔が増えます。

